

氏名（本籍）	飯村 大智		
学位の種類	博士（障害科学）		
学位記番号	博甲第	9888	号
学位授与年月	令和 3 年 3 月 25 日		
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当		
審査研究科	人間総合科学研究科		
学位論文題目	吃音者の支援に向けた就労の実態解明と関連要因の研究		
主査	筑波大学教授	博士（教育学）	宮本 昌子
副査	筑波大学教授	博士（医学）	竹田 一則
副査	筑波大学准教授	博士（障害科学）	米田 宏樹
副査	NPO 法人 LD・Dyslexia センター顧問		博士（心理学） 大六 一志

論文の内容の要旨

飯村氏の博士学位論文は、吃音者の就労の実態と就労に関わる関連要因を検討したものである。その要旨は以下のとおりである。

【目的】著者は研究の背景として、吃音者の就労に対する態度の研究や、非吃音者からの視点による吃音者の就労に対する認識についての研究の多くは国外の報告であり、日本における調査は十分に進んでいないことを挙げた。さらに、吃音者の就労をめぐる態度や知識など、文化的背景が考えられる知見については、職業観や労働観の文化差や、障害者の定義や範囲、手帳所持の状況など様々な点で異なるため、国内外では相違があると推測した。そこで、著者は第一に、吃音者による就労の否定的認識や職業選択への影響などの心理面（研究 1）、障害者雇用などの社会制度面（研究 2）、吃音者の周囲の者の知識や認識（研究 3・4）について国内での状況を明らかにすることを研究目的とした。調査結果から、先行研究による知見の普遍性と個別性を明らかにし、吃音者の支援に向けた就労の実態を解明した。

次に、著者は、吃音が言語症状としてのみ扱われるのではなく、近年では心理面や環境面も含め多面的評価がなされることの重要性に着目し、その視点が吃音者の就労の問題にまで網羅されていないことを指摘した。特に、本研究の後半では、吃音と社交不安障害（SAD）や自閉スペクトラム症（ASD）、注意欠如・多動症（ADHD）など発達障害との併存について注目した。そこで、本研究の第二の目的は、併存障害の有無が吃音者の就労の困難さに関連しているのかという点（研究 5）、吃音者の QOL は就労状況の影響を受けるのか、さらに併存障害の影響を受けるのか（研究 6）という点を明らかにすることとした。著者は、これらの点を明らかにすることで、より多面的な支援の在り方を提案できると考えた。

【方法・結果】研究 1～4 では吃音者の就労の実態解明を行うため、日本の吃音者および非吃音者への質問紙調査が実施された。研究 1 では、成人吃音者 182 名に質問紙調査を行い就労状況の把握として吃音者の就労における態度や職業についての調査が行われた。対象者の 74% が「吃音は職業選択に影響を与えた」と回答しているなど、職業選択や昇進に吃音が否定的に影響すると認識されていたことが明らかにされた。非吃音者に比べ、吃音者は専門・技術職に就く者が多い一方で営業職は少なく、吃音が職業選択に影響する可能性も示唆された。吃音を公表している方が周囲から吃音の理解が得られやすいことも示された。

研究2では、就労困難と想定される吃音者、すなわち障害者手帳を所持する者の就労状況の実態把握を目的に調査が行われた。吃音者115名への質問紙調査の結果、手帳所持者は13名であることがわかった。手帳非所持群に比べ、手帳所持群は主観的な吃音重症度が有意に高く、吃音症状が重度の者は、就職活動や就労での困難感を背景に手帳取得に繋がる可能性が示唆された。

研究3では、非吃音者が有する吃音への知識の実態について明らかにされた。非吃音者303名が、吃音の有症率、発吃（吃音が始まりやすい）年齢、性差など、吃音に関する知識について問われた。55.8%は吃音者に会ったことがあったと回答したが知識は限定的であった。年齢の高い回答者や女性の方が吃音の知識を多く持っていたことが明らかにされた。

研究4では、非吃音者671名への質問紙調査により、非吃音者による吃音者の就労に対する認識について明らかにした。「吃音は昇進を妨げると思う」など、就労場面で吃音を否定的に捉えた非吃音者が約2割存在した。回帰分析により、吃音者への接触経験の有無が、吃音に対する態度の有意な説明変数であることが分かった。

研究5～6では吃音者の就労に関連する多面的要因について検討された。研究5では、吃音との高い併存率が報告されているSAD、ASD、ADHDと就労との関連が検討された。成人吃音者110名にSAD、ASD、ADHDのスクリーニング項目を含めた質問紙調査が行われた結果、約半数がいずれかの障害が疑われる基準に達していた。吃音の問題に加え併存障害のために就労困難感が生じていることが推測され、就労に関する相談場面において、社交不安や発達特性なども含めた包括的評価の必要性が推察された。

研究6では、吃音者のQOLについて就労や併存障害との関連から検討された。成人吃音者30名を対象に調査が行われ、QOLを測定するOASES-A-Jの有意な予測因子として、就労場面の「困難」「回避」「就労の否定的認識」「コミュニケーション態度」「ADHD(不注意)」が抽出され、吃音者のQOLには併存障害や就労が関連することが示された。

【考察】研究1～4で行われた吃音者の就労の実態把握において本研究で示された結果は、国外の報告と概ね同様の傾向を示した。すなわち、吃音者や非吃音者の認識や態度は、概ね一定の普遍性を持つことが示された。その結論に従い、著者は国外の研究にみられる論点から、吃音者の支援に向けた枠組みを以下のように考察した。まず、吃音重症度が就労困難感に関わっていた点から、発話流暢性へのセラピーが求められる。次に、吃音者の心理的・環境的側面は職業選択や自己の否定的認識との関連も見られることから、心理・感情面、環境面への支援が必要であると考えられる。特に、本研究で示された接触効果により社会的変容を促すことは、偏見や差別の軽減という観点から重要であり、環境面への支援による心理・態度面への影響も期待される。併存障害に向けた支援については、薬物療法、認知行動療法、環境調整、行動療法などによる介入が求められる。併存障害が吃音の発症や持続に関与する可能性もあると考えられ、さらなる検討が必要である。

研究5～6より、併存障害は吃音者の就労困難感を高めること、QOLにも関連することが明らかにされた。著者は、QOLに関連する要因を以下のように考察した。併存障害と吃音の関連性について、吃音および本研究で挙げた併存障害の確定的な共通遺伝子は確認されていないが、いずれも多因子遺伝的な遺伝と環境の両要因が関わっている点は共通する。遺伝・環境的な相互作用として吃音があることが発達障害の出現や持続の一つの要因となる可能性、あるいはその逆の可能性も十分に考えられる。吃音は発達障害者支援法では発達障害の範疇に含まれており、今後は病因論的な発達障害との関連性の解明が求められる。さらに、職場などでの合理的配慮や障害者手帳を活用した就労、言語聴覚士などの専門職による言語面、態度・感情面への支援などが広く提供される必要性が推察される。また、SADについては、遺伝的要因もあるが吃音の二次的な影響として発現する可能性が高いと指摘されており、本論文もそれを支持する結果である。そのため、SADの予防的介入は心理面の重症化を防ぐためにも意義が大きいと考えられる。

以上のことから、本研究では、就労の困難・回避・否定的認識は、QOLに大きく作用している可能性がある結論づけられた。周囲の否定的態度は吃音者への認識にも影響し、逆に吃音者の個人因子によって周囲の理解も変わり得る可能性も示唆された。著者は、今後、周囲の認識や態度、合理的配慮を含めた「環境因子」、吃音者の「個人因子」が就労とどのように関連するかを検討することが重要であると指摘した。本研究結果から、吃音支援の社会的要請の提案が期待でき、吃音者の就労を含めた支援に向けて今後の研究や臨床の示唆をもたらすものとして本論文が位置づけられると考えられた。

審査の結果の要旨

(批評) 本研究により、これまでに国内で不明であった吃音者の就労に対する認識や態度などの実態が明らかにされた。結果は国外のものと概ね一致し、吃音者・非吃音者の就労に対する認識や態度に地域や文化を超えた普遍性があることを見出した点において先駆的な研究であるといえる。さらに、非吃音者からみた吃音に着目し、知識が不足している点や就労場面で否定的な観方をする者が存在する実態を明らかにした上で、両者の認識のギャップを埋める手段として「接触経験」が肯定的に働くのではないかという結論を示した。この結論には、今後、吃音者の QOL 向上を目指した環境調整による支援現場に波及効果があるという点で期待がもてる。最後に、著者は近年吃音者の困難の背景にあると推測されてきた併存障害に注目した点を評価する。併存障害は吃音研究においては難解なテーマであり、吃音との関連性については現在のところ不明である。しかし、著者は「就労」に関わる調査結果から、吃音が併存障害を有しやすい原因を仮説化した。さらに、併存障害の発症および重症化のリスクを下げる予防的介入を行うことで多くの吃音者の QOL 低下を防ぐ可能性を示した点は、本論文の大きな発見であり、今後の発展を期待する。

令和3年1月18日、学位論文審査委員会において、審査委員全員出席のもと論文について説明を求め、関連事項について質疑応答を行い、最終試験を行った。その結果、審査委員全員が合格と判定した。よって、著者は博士（障害科学）の学位を受けるのに十分な資格を有するものと認める。